いつまでも地引き網漁を伝えていきたい

観光地引き網を行っている大石英夫さん（東同笠）と永田幸司郎さん（東同笠）にお話を聞きました。

中学卒業後、船に乗り海に出ていました。当時は、シラスやアジ、サバなどたくさんの魚がとれました。

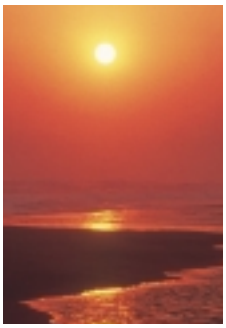
とれた魚は、横須賀へ歩いて売りに行ったそうです。

昔は、堤防から海まで１００ｍくらいあったと思います。真夏は、砂が熱くてとても苦しんだのを覚えています（永田さん）。

最近は、地引き網漁を継いでくれる人がいないため、衰退しつつあります。若い人の力で、地引き網漁を盛り上げてほしいです（大石さん）。

昔の地引き網漁の写真を見ながら語る
永田幸司郎さん（写真左）と大石英夫さん（写真右）

思い出の海



真夏の太陽のもと行われるふれあい海岸まつり

季節風による飛砂を利用するため竹すのこや粗朶を立てて防潮提を築く海岸砂防工事(昭和45年)

動物や植物、建物など子どもたちの力作が並ぶ砂の造形大会(昭和54年)

太公望でにぎわっていた浅羽海岸

ハタミ採りでにぎわう浅羽海岸（昭和53年）

卒業アルバムを見ながら当時の思い出を語る安間元紀さん（写真左）と金原佳紀さん（写真右）

私たちの生活のすぐ近くにある海・砂浜

砂の造形大会やハタミ採り、ウミガメ、キャンプファイヤー、飯ごう炊さんなど海での思い出を安間元紀さん（湊中）と金原佳紀さん（湊西）に聞きました。

浅羽南小学校6年の時には学校行事で海に行き、砂浜で調理し、まきに火を付けたり、野菜を切ったりして、みんなでカレーを作りました。トーチを片手にキャンプファイヤーもしました。

砂の造形大会では、グループに分かれて砂まみれになりながら、造ったそうです。

今では、浅羽海岸でウミガメを目にすることは少なくなりましたが、昔、父と海に釣りに行ったら、砂浜で動けなくなっていたウミガメを見つけました。二人で抱えて波打ち際まで運んであげました（金原さん）。

寝ている時にも波の音が聞こえる環境で育ってきました。砂浜は、今よりとても広かったです。私たちの子どものころのような広い砂浜が復活してほしいです（安間さん）。